

高齢発症のうつ病における形態および機能画像の異常とそれに関連する臨床症状に関する研究

1．研究の対象

2018 年 8 月から 2022 年 7 月までに当院精神科病棟に入院し、入院時にうつ病と診断された患者さん

2．研究の期間

研究倫理審査委員会承認後～2024 年 3 月 31 日

3．研究目的および意義

高齢で初めて発症したうつ病の背景にはアルツハイマー病やレビー小体病、脳梗塞、脳出血などの脳内に生じる別の病気があることが多く、通常のうつ病よりも治療に難渋する要因になるという報告があります。特にレビー小体病（パーキンソン病やレビー小体型認知症）の発症前にはうつ病を発症することが多く、レビー小体病の予備軍であるかどうかを知ることは、今後の治療方針の決定のために重要な情報となります。しかし、多くの施設では当院のように機能画像検査（脳血流 SPECT、DaT-SPECT、MIBG 心筋シンチグラフィー）を実施することが出来ません。そこで、今回は、うつ病の際によく

見られる様々な臨床症状（体感幻覚、幻視、幻聴、妄想、緊張病症状、自覚的認知機能低下、パーキンソン症状、睡眠時行動異常）と機能画像の結果との関連性を調べることで、機能画像が撮影できない状況でレビー小体病の予備軍であるかどうかを判断することが出来る症状を特定し、早期診断につなげることが本研究の目的です。

4．研究の方法

指定の期間に入院をされた患者様について、入院カルテを参照し、入院の時点でうつ病と診断されていた患者様を特定し、そのカルテ内容を確認し、実際の臨床症状と心理検査の結果、画像検査（脳血流 SPECT、DaT-SPECT、MIBG 心筋シンチグラフィー）の結果、有効であった治療方法（抗うつ薬単剤、その他の薬物療法、電気けいれん療法）退院時の診断について確認し、結果を分析します。

5．研究に用いる試料・情報の種類

患者さんの年齢、性別、入院時および退院時の診断、心理検査および画像検査の結果、臨床症状（体感幻覚、幻視、幻聴、妄想、緊張病症状、自覚的認知機能低下、パーキンソン症状、睡眠時行動異常）の有無、有効であった治療方法（抗うつ薬単剤、その他の薬物療法、電気けいれん療法）

6．研究組織

東京都健康長寿医療センター 精神科 松井 仁美（研究責任者）

7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の削除など十分なご対応ができない場合がありますことをご了承ください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都健康長寿医療センター

精神科 松井 仁美（研究責任者）

電話 03-3964-1141 （平日 9：00～17：00）